

INUHARIKO NEWS

vol. 16

園庭を デザインする。



園庭デザインの7つのポイント

園庭をデザインする

子どもの運動能力をアップさせる園庭のカタチ

園庭の立地に合わせた遊具とフリースペースの配置、子どもたちが積極的にかつ、安全な動線を考えることで、子どもたちの体力や運動能力の発達をより促すことができます。

1

人気のある総合遊具や大型遊具は、園舎から離れた位置に配置することで身体活動量UP!

2

園庭の中心にトラックを確保し、フリースペースでの遊びで運動量を増やし想像力を伸ばす。

3

年齢や発達に応じたサーキットあそびができる動線を考慮する。

4

園児に遊ばせたい、体力や運動スキルをつけていく遊具は、園舎の近くに配置し、ふれる機会を増やす。

5

低年齢児と幼児のエリア分けをして事故を減らし安全を確保する。

6

遊具・緑を詰め込みすぎず管理者から見て死角のない園庭にする。

7

年齢別にあった遊具を各クラスの近くに設置することで、遊具までの動線が安全に確保される。



[監修] 前橋 明
早稲田大学人間科学学術院 教授(医学博士)

園庭の大きさによるモデルケース

大園庭

シンボルとなり、体力づくりに寄与する大型遊具の設置。年齢や発達に合わせた安全なエリア分けや動線を考慮し、運動量を確保が可能。

中園庭

動線を意識して、単体遊具と総合遊具を効果的に配置すれば、大園庭なみの体力と運動能力アップも狙える。

小園庭

運動量の確保が難しい小園庭でも、前述の7つのポイントを押さえれば、十分な運動量を確保でき、効率のよい園庭に。





ヒトトキ

ジャクエツが提案する
緑あふれる園庭環境。

concept



自然と共に過ごす。

それは、たくさんの冒険を経験し、
たくさんの「はじめて」に出会うこと。

子どもたちは出会いのなかで成長し、
豊かな感性を育みます。

幼い頃の記憶は忘れられない
思い出になることでしょう。

思い出を創る



トキ (体験する時間)



ヒト (園児)

自然に触れる



キ (樹木)



ヒト (園児)

はじめての体験 + 自然に近い環境



運動能力の向上に加え、
コミュニケーション力が
育まれます。



水に触れることで、
自然の大切さを学び
五感を研ぎ澄まします。



築山や砂場は、
自由なあそびが
生まれる場所です。



花や木、果実によって、
一年を通して
自然の恵みを感じます。

自然と触れ合う環境を通じて、
子どもたちのこのところからだを
育む体験空間を提案します。

園庭計画

砂場あそび



砂場あそびには、子どもたちの年齢や発達に応じて様々なメリットがあります。乳幼児は砂を握ったり挿んだりすることで五感の一つである触感を刺激したり、手先の器用さを育みます。幼児になると自ら考えて工夫し造作することで創造性を養うことができ、お友達と共用して遊ぶことで社会性が身に付きます。また、地面が不安定な砂場にはバランス感覚を鍛える役割もあります。

築山あそび



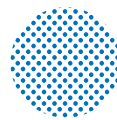
築山で高低差を作ることで、平地と比較しても、体力・運動能力の向上が見込めます。築山は、登る・下る・滑る・転がる等の基本運動スキルを身につけるだけでなく、友だちとのコミュニケーションづくりやごっこあそびの発展、ホーッと休むことのできる場所など、幅広いシーンをもち合わせています。

CASE 1
いいじまひがし
こども園 様
神奈川県横浜市

自然体験を通じた 学びと体づくりを 安全性にも 配慮された園庭で

いいじまひがしこども園は、住宅地に農地も点在する横浜市郊外にある認定こども園。園所有の小山や畑が隣接し、芋掘りやみかん狩り、田植えやタケノコ掘りなど、様々な自然体験を保育に取り入れています。

リニューアルした園庭には、立体的かつ複合的な遊び要素をもつ築山や木製遊具の「キノウエ」、ガチャポンプと自然木を使用したじゃぶじゃぶ池や泥団子スペースなど、自然環境に近い多彩な遊び場を設置。安全に配慮された中で、園児たちが日々の遊びの中で体幹を鍛えたり、創意工夫を楽しんでいます。



information

学校法人須藤学園
いいじまひがしこども園

所在地：神奈川県横浜市栄区飯島町2158
定員：267名(0歳～5歳児)
開設：昭和51年4月
施工面積：579.8㎡





園庭全体に遊びの要素を

多彩に導入したゾーニングを実現

園庭全体を一体感のあるゾーニング設計から遊具の設置まで、全てをジャクエツが担当。先生方と何度も綿密な打ち合わせを行い、冒険するような楽しさと安全性の両側面に配慮した園庭が完成しました。

園庭のリノベーションに至った経緯についてお聞かせください。

園長▼園舎の建替えに伴い、遊具の新規導入というのが主な経緯ですが、当園の保育方針の柱である自然体験を通じて保育活動を一層充実させたいと思い、園庭のリノベーションを行うことになりました。ジャクエツさんとは30年以上前に遊具を導入した縁があり、信頼できましたし、今回の提案がとても良かったため、お願いすることになりました。

川越▼私は前任者から引継いでの担当でしたが、打ち合わせを重ねる中で園の保育への姿勢に多くの学びをいただきました。また、当社のかつての仕事が今に繋がったことを知り、お客様のために心を尽くす大切さを改めて強く感じました。



ジャクエツ横浜店
川越 諒(営業担当)



ジャクエツ横浜店
店長 中塚 豪



いいじまひがしこども園
園長 須藤 伊佐夫様



築山 ヒューム管

人工芝を用いた築山には、ヒューム管も設置。滑り降りたり、駆け上ったり、トンネルを潜ったりと自由な遊びの中で体幹を鍛え、バランス感覚も養います。またFRP製の滑り台は木調に仕上げているため自然に馴染みます。



がき大将

煙出しをイメージした二重屋根が特徴で、中にはかわいいデッキや梯子がついたお家です。かくれんぼをしたり、ごっこ遊びをしたり、子どもたちの秘密基地となり、好奇心を育みます。

ロープウェイ

スイングするボールにまたがって滑走するロープウェイは子どもたちに大人気。順番にスリルのある空中散歩を楽しみながら、社会性や体のバランス感覚を育みます。



設計立案に際し

強く希望された点は何でしたか。

園長▼単なる遊具の設置でなく、自然に親しみ、身体や社会性を育む場であることを重視し、とくに起伏のある遊び空間や、従来の池を蘇らせる、田んぼはそのまま使用したい等の要望を出しました。

中塚▼ご要望を受けて思ったのが、平面ではなく、立体的な遊びで全身を使う園庭にするという考え方でした。駆け上がったたり、寝転んだり、滑り降りたりできる築山には、クッション性と耐久性を備えた工夫も行いました。また、子ども同士で自発的にルールを決めたり、他者をいたわったり、思ったことを話し合ったりするコミュニケーションを生む遊び場となることにも留意しました。

提案や施工に対してどのような印象を持たれましたか。

園長▼当園の先生から「築山の死角になる部分がないように」「目を離した際にビオトープに落ちないように」といった声が出た際にも、設計変更をしっかりと考えて丁寧に対応してくれました。

中塚▼教育現場の声

はとても大切で、すぐに設計変更を行いました。死角については、築山やヒューム管の向きを調整し、ビオトープのデッキには柵を設けました。デッキや柵などの材料には安全性の高い耐久性を高めた天然木を用いています。

完成した園庭にどのような感想を持たれましたか。

園長▼しっかりと良い提案をしてくれて、施工中は足しげく通ってくださいました。安全性も深く考慮されており、要望以上のものが出来上がりました。完成した園庭は、園児はもろんのこと保護者からもたいへん喜ばれています。

川越▼完成後、子どもたちの遊ぶ様子を見て本当に感動しました。

中塚▼園児がここで心と体を育み、生涯にわたる原風景となればと思います。その意味でもこちらの大きな事業に携わり、仕事の醍醐味を感じさせていただきました。ありがとうございました。



キノウエ ~アトリエハウス~

14種類の遊び機能を備え、木の上の家まで梯子やネットを使って登ったり、テーブルでクラフトをつくったり、様々な遊びから、身体的発達や社会性、知的好奇心を育みます。また、園のシンボリックな存在にもなっています。



じゃぶじゃぶ池

園児がガチャポンプで水を汲み上げると、自然木を使った池から、田んぼやどろんこ砂場へと水が流れていきます。足を浸したり、泥団子をつくったりして、水や土に触れる遊びから五感を研ぎ澄まします。



ビオトープ 池にはメダカなど数種類の魚を放流し、池の水を循環させることで水質を維持しています。中央にはカメ島をつくり、池の周囲にはデッキと、安全柵を設けています。デッキの素材には、熱さを感じにくく、ささくれや腐りがないパームデッキを使用しています。





CASE 2
サニーサイド
インターナショナル
スクール 様
岐阜県岐阜市

園庭全体が 子どもたちの 一大遊び基地に

サニーサイドインターナショナルスクールは、地域の幼児教育の先駆的な役割を長く担ってきた幼稚園を前身として、平成28年に小学部を併設。日本で第一号の国際バカロレア認定校※となりました。

最大の特色は、国際理解を柱にした幼児教育。英語の語学力だけでなく、広い視野で自ら考える力を育む教育を行っています。新設された園庭は、自ら遊びを生み出し、また、お友達との楽しい遊びを通して、そうした思考能力や創意工夫、社会性を育む場ともなっています。

※国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラム



information

学校法人渡辺学園
サニーサイドインターナショナルスクール
幼稚園部

所在地：岐阜県岐阜市岩井4丁目10-25
定員：幼稚園部 240名(3歳～5歳児)
プリスクール19名(0歳～2歳児)
開設：昭和45年(前身の「ながら第2幼稚園」)
施工面積：1,600㎡



築山

キノウエハウスと繋がる築山は、かなり高くし、それとは別に0歳～2歳児用も楽しめる低い築山も設置。



木製遊具

園庭のシンボルにもなる木製遊具「キノウエ ソライロハウス」と「太陽と風のおうち」を中心に据え、長い吊り橋で連結。ハウスの一つは三階建てになっており、子どもたちの隠れ家となっています。

吊り橋

勇気を出して吊り橋を渡り切った子どもたちの心に、大きな達成感をもたらします。



すべり台

2つのすべり台は長めに設置し、地面には安全対策として厚めのゴムチップを施工しています。



クライミング

天然木の壁に取り付けたボルダリングのホールドをつかみながら、足をかける位置を考えたり、身体をよじったりと、心身に合わせた発達を促します。



interview

大型遊具を据えた

シンボリックなゾーニング

サーキットコースをまたぐように繋がる木製遊具や築山が、平らな園庭に立体感を生み出しています。子どもたちの好奇心を刺激する楽しい園庭となりました。

念願だった園庭整備へ

園長▼今回の園庭整備は、これまで校舎の増築や、設備拡充を行ってきた総仕上げとなるものでした。保護者からも園庭の要望があり、オンリーワンの園庭にしたいという私自身の夢や思いもありました。ちょうどそんな時に、ジャクエツさんの「次世代園経営者セミナー」の講師に招かれ、徳本社長とお会いしたのがきっかけとなりました。

徳本社長の理念や遊具への考え方は、共感する部分が多く、この会社なら理想を叶えてくれると思いました。そうした経緯で一気に計画への拍車がかかり、長く熱望



ジャクエツ岐阜店
店長 守田 裕



サニーサイド
インターナショナルスクール
園長 渡辺 寿之様



砂場とシェード

三つの円を繋げた形の砂場には、日除けのシェードを設置。雨や積雪時に脱着が簡単にできるようになっています。



TOYBOX

低年齢児向けに、遊びの要素をふんだんに取り入れた、安心して遊べる木製ハウス。



サーキット 脚力をつける遊びとしても注目される三輪車で、ぐるりと園庭を巡るコースを設置。単純な楕円ではなく、緩やかなS字カーブを複雑につけています。



立体的な変化に富んだ園庭を

守田▼こちらは園庭の敷地が広いので、大胆なゾーニングプランが実現しました。立体的な変化をとのご要望に合わせて、大型遊具の中でも特に大きなタイプを中心に据え、築山の一つをかなり高くし、斜面角度の多様な変化にもこだわりました。

守田▼ありがたいお言葉です。サーキットの吊り橋の下を三輪車で走り抜けたり、実際に楽しんで遊んでいます。

守田▼先生方の意見には、グラウンドカバーも全て天然素材をとの声も踏まえて、当初は人工芝の採用に躊躇しました。しかし、校舎内への砂の侵入やメンテナンスなどの点から、中心部分は人工芝を採用し、フェンス周囲の植栽部分を天然芝でカバーしました。

また、大型遊具下のゴムチップや人工芝は、万が一の怪我を軽減するだけでなく、水はけが良いため、雨上がり後にも外遊びができるようになりました。芝とゴムチップとサーキットの色のコントラストも美しいですね。

守田▼人工芝は子どもたちが寝転がったり、滑り降りたりして楽しめるように、とくに草足の長いタイプをお勧めしました。

本当に良い園庭が完成し、この大きなプロジェクトに参加させていただいたことに、心から感謝しております。ありがとうございました。



CASE 3

ひばり
保育園様

福岡県飯塚市

敷地の高低差が園児の集う緑の丘に

ひばり保育園は、15代にわたる歴史をもつ専寺(真宗西本願寺派)を母体とする保育園です。その理念は、仏教の精神を理想とした「まことの保育」を中心に据え、子ども達が、いつでも、どこでも、仏様を身近に感じ、豊かな心と健やかな身体の基礎をつくることを柱としています。

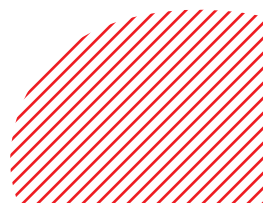
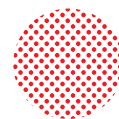
新設された園庭には、敷地の高低差をうまく活かした緑の丘もでき、仏様のあたたかい眼差しのように、陽光の降り注ぐ中で、園児が駆け上ったり転げ回ったり、のびのびと自由に遊ぶ空間になっています。



information

社会福祉法人 明見会 ひばり保育園

所在地：福岡県飯塚市小正45-1
定員：110名(生後3ヶ月～就学前)
開設：昭和61年2月
施工面積：1,100㎡



広い人工芝スペースには 乳幼児が安全に遊べるエリアも

新園庭は、一般道を挟む場所にあった旧園庭から、園舎と地続きの位置に移動して新設。園長先生をはじめ園スタッフの方々とは打ち合わせを重ね、3年余りをかけて今年2月、広々とした待望の園庭が完成しました。



ジャクエツ北九州店
新枝 亮



ひばり保育園
副園長 細川 了様

企画コンペで基本計画を選定

副園長▼園庭の新設にあたっては、コンペティション形式で業者さんを選びました。ジャクエツさんの提案はダントツに良く、事前説明会で出した要望が丁寧に汲み取られていたのが決め手になりました。

新枝▼ありがとうございます。私個人としては、入社以来、最も規模の大きな仕事でした。また、打合せを重ねる中でいただいたご要望に合わせて設計変更をしながら、よりよい園庭へどんどん進化していくという、素晴らしい経験をさせていただきました。

高低差を活かす工夫も

副園長▼旧園庭は道路を挟んだ向かい側でしたが、新しい園庭は、園舎から直接出入りできる場所に建設しました。しかしその地面が園舎より低く、約80センチの高低差があったのですが、あえて高さを揃えず、なだらかな斜面にして人工芝を貼りました。結果としてそれが、築山へといざなう草原の丘のようになり、園児たちから喜ばれています。また、新しい園庭になってからは、怪我が少なくなりました。

新枝▼人工芝には、最も柔らかく草足の長いタイプを使用しました。怪我がの減少は、その効果もあるのではないのでしょうか。

乳幼児のためにスペースを

副園長▼0歳から1歳の乳幼児が外で遊ぶ際、歳の大きい子とぶつからないかと、保育士はたいへん気が張ります。そこで柵を巡らせた乳幼児だけのスペースを提案してもらいました。これにより安全性の向上だけでなく、保育士のストレス軽減にも繋がりました。その柵においては、完成後で申し訳なかったのですが、高さを90センチにカットしてもらいました。大きい子たちと場所を分けつつ、見える高さで交流ができることも大切と考えたからです。

新枝▼設計変更はやむを得ないことで、例えば、三輪車を置く東屋などの設置に関しても、微細ではありますが、変更がありました。塀や壁の隙間が10〜30センチメートルというのは、園児が挟まる重大な事故に繋がりがかねないというご意見をいただき、隙間を広くし、植栽で入りにくくしました。保育現場からのそうしたご要望は、たいへん貴重で、とても勉強になりました。ありがとうございます。

乳幼児(0~1歳)エリア

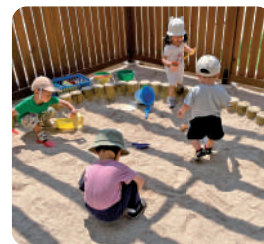
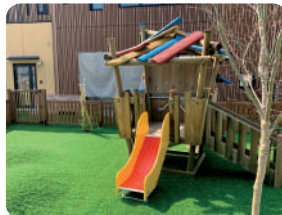


乳幼児が外遊びをするスペースは、歳の大きい園児との衝突事故などを防ぐため柵で区切り、人工芝が敷き詰められています。また、砂場の上には夏に木陰をつくる藤棚も設置しています。



TOYBOX

乳幼児向けの短い滑り台がついたトイボックスの中には、五感を刺激し、知的好奇心を引き出すパーツが取り付けられています。



砂場 乳幼児スペースの砂場には、山などの形をつくりやすいように、少し粘度のある山砂を入れています。



築山・芝生エリア



園舎から園庭への斜面も全て、草足が最も長く柔らかい人工芝を広い範囲に敷き詰めています。築山との連続性も生まれ、園児たちは走ったり滑ったり思い思いに楽しんでいます。

築山

築山には長い滑り台とヒューム管を設置。身体遊びからバランス感覚や、順番を待つという社会性が育まれています。



トンネル 築山の下を通るヒューム管のトンネルは、長めのものを採用。園児たちは出口を目指してぐったり、隠れたりして遊んでいます。

砂場エリア

砂場

3つの砂場を設け、海砂・川砂・山砂それぞれの異なる砂を使用し、手触りや遊び方の違いを自然と感じます。



砂遊びを通して、お友達との共同作業を行い、社会的適応能力や創造力を育む事が出来ます。また屋根を設ける事で、真夏の照り返し、暑さ対策となり、ガチャポンプを近くに設置することで、泥遊び・水遊びが出来るようになっています。



ガチャポンプと水路

子どもが大好きな水遊びと泥遊びができるように、ガチャポンプと水路を設置。ガチャポンプをうまく使う工夫も脳の良い刺激となります。

RESILIENCE PLAYGROUND

障がいの有無に関わらず楽しい遊具の開発プロジェクト

障がいの有無によって、遊びや遊びのコミュニティから遠くなっている子どもたちがいます。RESILIENCE PLAYGROUNDプロジェクトでは、障がいをもつ子どもたちの遊びを研究し、遊具を媒介として多様な個性・特性をもつ子どもたちがつながりやすくなったり、今まで遊具で遊ぶことができなかった子どもみんなと同じように遊びを楽しむことができたりするような遊び環境づくりを目指し、遊具の研究開発を行っています。

YURAGI | 揺れ体験がつながるトランポリン遊具

身体が不自由で動かない子どもでも遊べる遊具を研究し生まれました

障がいにより身体が不自由な子にとって、健常児の遊び場に混ざること非常に難しく、遊びが分断されてしまうという課題がありました。この分断により、成長がさらに遅れてしまうなど障がい児の遊び環境の課題はその後の成長にも大きく関わります。そういった遊び環境の分断を遊具を通して、心地よく調和できないかと考えられたのが“YURAGI”です。



紅谷浩之 医師 / オレンジホームケアクリニック代表



プロフィール
 福井医科大学(現・福井大学)医学部卒業。救急診療、地域診療所を経て2011年、在宅医療専門の“オレンジホームケアクリニック”を開設。その後、医療的ケア児の活動拠点“オレンジキッズケアラボ”をはじめ、子どもの育ちを軸にした地域支援施設など、病気や障害よりも「暮らし」にスポットライトを当てた活動・プロジェクトを幅広く展開している。

メッセージ
 医療的ケアが必要な子どもたちは、その障害や病状を理由に「友だち」や「遊び」から遠ざけられてきました。その子たちに「友だち」「遊び」を返していこう、と活動していく中で、乾燥した地面に水が浸み込むように遊びの刺激を吸収し、それまで止まっていた成長を重ねていく子どもたちの自慢げな“ドヤ顔”を初めて見る事ができました。病気や障害以外にも、さまざまな個性を持つ子どもたち。五感をフルに使って自分のペースで欲張るように成長していきます。どんな個性や特性も受け入れて、友だちとのつながりを感じられ、ちょっとしたチャレンジをあとおししてくれる。そんな遊びが、子どもたちの輪にあったら。そんな想いを実現してくれる遊具に期待しています。